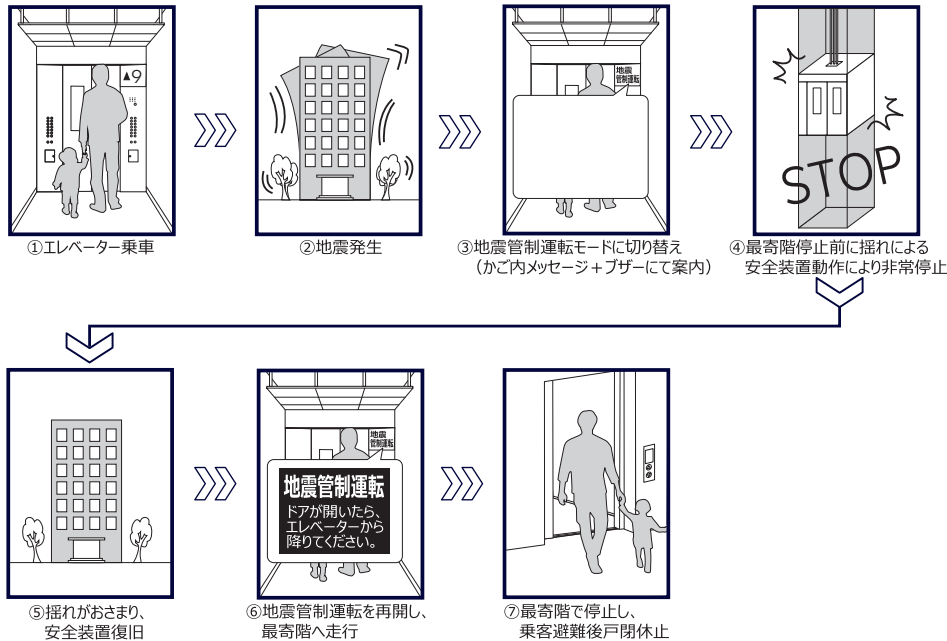


地震時リスタート運転

S14

地震時最寄階着床運転中に安全装置が動作すると非常停止をし、閉じ込めとなる場合があります。リスタート運転では安全装置が再度復帰した後に、最寄り階まで走行し閉じ込めを防ぐことができます。また、エレベーターを低速で走行させながら診断し、問題がなければ自動で仮復旧します。



地震時リスタート運転のフロー

- 昇降機技術基準の解説 2016年版で規定
管制運転中に安全装置が動作した事が原因で閉じ込められた乗客の救出を目的としています。
- リスタート運転の条件
運転速度は、20m 以下、運転制限時間は最長5分、運転方向はかごとおもりが離れる方向^{※1}
- 設置条件
P 波 + S 波（低 + 高）の3段設置^{※2} 及び一定以上の耐震対策が必要になります。
- 作業工程
作業時間は建物状況で異なりますので別途ご相談ください。
- 作業内容
感知器の設置工事、制御盤の改造工事、各種配線工事、耐震対策工事（耐震対策については現場調査実施の上、検討が必要です。詳細についてはお問い合わせください。）

※1 以下の場合には運転方向の規制は除外できます。

- ① S 波感知器の高を感知していない場合
- ② 最寄階に着床する上で、かごと釣合おもりの位置が大きく離れている場合
- ③ エレベーターの構造上、かごと釣合おもりの衝突が発生しない場合

※2 駅舎などの場合などは S 波3段で対応する場合もあります。



乗場表示例



かご内表示例



地震感知器